

【神聖意識の表面化と共に当然視できる自覚】

◎最近表面化してきた新たな自覚

生命の本質としての神聖が蘇ってくると人は誰でも、業想念やネガティブ思考、後ろ向きな考えなどが脳裡をよぎらなくなります。具体的には、次のようなことです。

- ①悲しみ方がわからなくなる。
- ②怒り方がわからなくなる。
- ③妬み方がわからなくなる。
- ④威張り方がわからなくなる。
- ⑤恨み方がわからなくなる。
- ⑥憎み方がわからなくなる。
- ⑦だまし方がわからなくなる。
- ⑧諦め方が思い出せなくなる。
- ⑨知らん顔の仕方が思い出せなくなる。
- ⑩羨み方が思い出せなくなる。
- ⑪劣等感がなんだったか思い出せなくなる。
- ⑫閉じこもり方が思い出せなくなる。
- ⑬打ちひしがれる方法が思い出せなくなる。
- ⑭無気力がなんだったか思い出せなくなる。
- ⑮悪い方へ悪い方へと、雪玉を転がし大きくするような思考が出来なくなる。
- ⑯新しいことにチャレンジしようと思うときに、逃げるという発想が起きなくなる。
- ⑰人と自分を比べて、一喜一憂することが非常に幼く感じてそうしようと思わなくなる。
- ⑱どんな時にも愛が溢れてやまなくなり、心がオープンになり、自己中心性に戻れなくなる。
- ⑲生命の本質が同一であることを直覚するため、自己と他者を分け隔てした見方が困難になる。
- ⑳あれほど心の中を占めていた不平不満の想いが、もう一度出そうとしても出てこなくなる。

㊦自身を過小評価も過大評価もしなくなり、ありのままを抱きしめながらあるがままの自己でいられる。

◎神聖の自分にすぐ立ち戻れる

そのように神聖から遠く離れた想いの癖が顕在意識と潜在意識から薄れてくると、私たちは業想念習慣の想念言動行為を継続したり、思い起こしたりすることさえ困難になってきます。

仮に過去の想念習慣が顔を出しても、すぐに神聖の自分に立ち戻ることが出来るようになります。

その代わりに私たちは、宇宙社会共通の神性を地上に顕現して、地球人類みんなが目指すべき姿を示すように変わってゆきます。

私たちは本来、愛深いのが当たり前でした。他を許せるのが当たり前でした。自分を大切にし、他を大切にすることが標準でした。それをみんなで思い出すときがようやくと来ました。

私たちはすでに、業想念の想念・言葉・行為を、自分に表わすことに違和感を感じるようになりました。

どんなに「私は立派になった」とか、「神聖復活した」とか、「悟りを開いた」とか思ったところで、消えてゆく姿は地球界の波動が今のままであるうちは死ぬまであります。

ですから、気を抜くことはもちろんできませんが、私たちはもうすでに、業想念の波に安住することがありません。

ゆえに、それらの波が自らの内に現われたときには、「それは本当の自分ではない」とすぐに自覚出来て、『消えてゆく姿で世界平和の祈り』で天に還すことができます。

◎いのちの本住の地・神聖世界に住みながら光を送る

そのようにして私たちは、終末の様相を呈しているこの世で何を見聞きしても、心はすぐに、いのちの本住の地である神聖世界に戻ることができます。

土曜日の夜は、そうした確固たる神聖の意識を持って、自らの神聖を改めて深く自覚して、世界に光を放つ日にしてまいります。お時間の都合がつく方はご参加ください。

【はじめの話】

齊藤：皆様、こんばんは。土曜日夜の特別プログラムを始めます。本日は、案内メールにありましたように、業想念習慣が当り前ではなくなり、残りの消えてゆく姿が現われてもすぐに神性の立ち位置に戻ることができるようになった私たちが、自らの神聖を改めて深く自覚して、世界に光を放つ時間にしてまいります。

それでは始めに、世界平和の祈りを日本語と英語で行なってまいります。

1. 世界平和の祈り

齊藤：それでは始めます。

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私達の天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

2. 以降のプログラム

2.以降の内容は決めていません。お祈りをしたり、印を組んだりする時間は設けますが、勉強会のような内容になりますのでご了承ください。

以上